

書き損じハガキ、切手(未使用)を待っています! ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

＜後援費を振り込んでいただいた方＞(敬称を略させていただきます)

石崎邦彦 田中 誠 墳下 千里 嘉悦 登

小笠原光子

＜カンパ・寄付をいただいた方＞

武田伸二郎 二文字理明 墳下 千里 高野

＜書き損じハガキをお送りいただいた方＞

白石厚子 武田伸二郎 高野

＜外へ飛び出すためのカンパをいただいた方＞

石崎邦彦

発行 1997年1月

編集 クリエイティブハウス

“パンジー”

▲ **パンジーまつりのためのリサイクル大募集!**
くわしくは、折り込みチラシをごらんください。

▲ **パンジーのメンバーが講演に行きます!**
興味のある方はパンジーまでおたずねください。

▲ **メンバーが全国へ飛び出すためにカンパをお願いします。**
全国の知的障害者が集う会議が各地で行われています。その会議では自分たちのこと、将来のこと、自立についてなどを話し合います。
現在、旅費、宿泊費はメンバーの個人負担。
少しでもメンバーの負担を軽くするためにカンパをお願いします。

パンジーでは後援会員を募集しています。

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市城東区東中浜2-10-1-3
緑橋グリーンハイフ・アート企画気付

昨年10月、つばさグループ10周年のイベントを、思った以上の人たちが集まってくださって、無事終えることができました。あらためて、たくさんの人たちに支えられて今のパンジーがあることを実感した一日でした。

私たちはこの10年、障害を持つ人たちの地域での自立をめざして活動してきました。現在、障害者をめぐる状況は、私たちが思い描いてきたことがあたかも実現するかのように、在宅福祉に関連する事業が新設されています。しかし、国レベルの事業の新設だけでは、地域の障害者のおかれている状況はなんら変わりません。自治体の政策になって、はじめてサービスとして利用できるようになります。

これからは、自治体に障害者の生活を支援するサービスの実施について具体的に要求していくことと、それに伴う障害者を主体とした支援のあり方の中身づくりが、私たちに問われているのだと思います。パンジーの目指すものは10年前と同じです。しかし、これまで培ってきた活動の内容や方法を社会状況に照らし合わせて、新たなものに作りかえる必要性を感じています。

今、パンジーはお正月休みがあけたところです。休み中に持て余したエネルギーが、いたるところで炸裂しています。また、いつもと違う日常に不安になってまだ顔を見せていない人もいます。

そんな一人一人のお正月休みに思いをはせながら、「当事者主体とは?」「社会状況にみあったシステムの再構築とは?」など、重いテーマに取り組んでいます。それにしても、人と関わるのを職業とするのは、「自分が問われるタフな仕事だ」と、しみじみと思います。

(よしみ)

パンジーに関わる人々

「無限の可能性」

広田 隆治

パンジーには、パソコンの仕事で来ることが多いので、皆さんとはじっくり付き合ったことがあまりないのですが、それでも驚きや発見は多々あります。

去年の終わり頃のことです。にぎやかな昼ご飯の時間、わたしも食べ終わって食器のお盆を持って片づけに行こうと階段の脇を通りかかりました。北川君がいつものようにハンカチをピチピチさせながら、カラオケの方を向いていました。何見てるのかなと、わたしもそっちの方を見てみると、野畑さんがいました。

野畑さんはいつものようにひよこひよこことこっちに歩いてきました。北川君の所に来ると、北川君がひよいと右手を伸ばし、野畑さんの左手のひじの所につきこみました。「あれ？」とわたしが思っていると、野畑さんと北川君はそのままスタスタと早足で出口に向かいます。

野畑さんは忘れ物をしたらしく、5・6歩して、またひよいとUターンしてひとりカラオケの方に戻ります。それからまた戻ってきたかと思うと、ひよいと手を取り合ってスタスタと出口を出ていきました。それはすばやい足どりでした。いくら練習してもああは行かないだろうと思えるほどの、見事な二人三脚でした。

わたしはびっくりして、その次にものすごくうれしくなりました。

長崎のハウステンボスにみんなで旅行をしたときに、たまたまバスの斜め前に北川君と介護者の人が並んで座っていて、北川君が体を前後に動かしながらハンカチを振り回していました。介護をしていたのがわたしの友だちであったこともあって、はらはらして見ていました。わたしは北川君とどうしたらコミュニケーションができるんだろうかと暗くなっていました。

それが、野畑君との情景を見てぱっと晴れました。「なーんだ、できるんだ」と。わたしだってそのうち北川君ともそんな二人三脚ができるかもしれない、と明るくなりました。

あとで聞いたら、二人で近くのコンビニに買い物に行ったのだそうで、毎日の楽しみの日課なのだそうです。

わたしは2階のパソコンの所に上がって、そこにいる人たちに「無限の可能性があるよ」とひとり興奮して、ひとり納得して叫んでいました。

自立生活センター「わくわく」

よかったこと、きにしてほしいこと

「わくわく」でガイドヘルパーと外出しているメンバーに、ガイドヘルパーの「よかったこと」「気にしてほしいこと」について聞きました。これから、シリーズで聞いていきたいと思います。

Q よかったこと

A 「何してもあかるい」「切符を買うときに、お金のことをちゃんと説明してくれた」「いろいろと話しのできる人」「私が食事のカロリーを気にしてくれていることを知って、一緒に低カロリーの食事を、時間をかけて探してくれた」

Q 気にしてほしいこと

A 遅れてきたが「言ってもしかたないから言わへんかった」
「何を食いたいかわかなくて聞いてほしい、ヘルパーの好みでラーメン屋にいかんといしてほしい」「お金があまりないことを考えてくれない」「お店に入って、気がつく、ヘルパーが自分の好きな物を見に行ってしまう一人取り残されてしまった」

「わくわく」では、来年から本格的に介護者を募集します

「わくわく」では、ガイドヘルパー制度を利用した1ヶ月に2回の外出活動のガイドヘルパーや、自立しているメンバーの土・日曜日の生活作りのための、食事作り・宿泊・外出活動を一緒にしてくれる介護者を探しています。

興味のある方は一度「わくわく」までご連絡下さい。また、介護者探しのために、みなさんのところへ、はがき、FAX、電話でお願いをすることもありますが、そのときはご協力お願いします。(大北)

★「わくわく」の今後の予定

1月18日(土) スケートなど 2月1日(土) 自由外出
2月15日(土) 自由外出

心の居場所

中新井 滯子



今回は落ちつけない理由の②「今心ここにあらず」について考えたい。他のことが気になって仕事が手につかない状況は誰しもよくあることで、心が今どこにあるかを自覚している時はとりたてて問題になることはない。心の所在が本人にも周りの人にもはっきりしない場合に軌轢が大きくなる。

言葉で意志や気持が伝えられるのは便利だが、言葉が必ずしもありのままの心を表現しているとは限らない。それは能力の問題ではなく、その場の状況や伝える相手との関係性の中で心にもないことを口ばしすることもある。また、本当に自分が欲していることに気づかないまま手近かな要求を並べることも多い。

例えばAさん。一応部屋にはやって来るが、仕事には見向きもせずスタッフをつかまえて盛んに訴える。「〇〇に電話をかけたい」「□□とコーヒーを飲みたい」「旅に出たい」など。今まで何回電話をかけてもコーヒーを飲んでも、決して彼はそれで満足していないことを承知のスタッフは、それでも同じ要求を繰り返すAさんに戸惑いながら、彼の言葉に反応してしまう。「何回も電話するのは良くない」「昼休みまで待とう」「どこへどのように旅行したいのか」。それがまた彼をいらだたせ破壊的行動をひきおこす。

Aさんとは床の上に座りこんで話を聞いたことがある。彼は言動と気持のギャップの大きな人で、幼ない気持を受けとめると急に素直になる。そこで一日一度でいいから彼と真正面に向き合って彼の言動ではなく気持につき合う時間を持つことを提案した。「いくら話をしても満足できない気持」「現実から出ていきたい気分」の中で、Aさんは甘えを直接出すようになる。スタッフはどこまで許容したらよいか躊躇することもあったが、彼自身も気づいていなかった母子関係に見られるような基本的な信頼感を今、体験しつつある。

「愛され 守られ 信頼される」実感 —— 心の居場所 —— を求めて彼の心はここになかったと言うことが出来よう。

厨房より

我が相棒、若くてハンサムなyくん

あけましておめでとうございます。〇-157でゆれ動いた96年もまずは事なきを得、新しい年を迎えることができました。まもなく5年目に入ろうとするパンジーの厨房の現状をお知らせいたします。

朝一番に我が相棒である若くてハンサムなYくんがパンジーバスでさっそうと出勤。彼の水かけ洗礼で厨房の一日が始まります。そして、涙の食材(タマネギ)刻みに続きメインにとりかかります。肉を焼き始めるとお皿片手に「ヤキニク、コーヒー、ヤキニク、コーヒー」と、絶え間ない彼のささやきを受けながら片方で盛りつけが進行します。

12時5分前、いよいよ佳境への秒読みです。JUST12時になると、T君、Nさん、Iさんなど定番を先頭に続々とホールに集まります。約1時間、食事、カラオケ、買い物など自由で充実した時がすぎてゆきます。午後1時になるとパンジーのホールは喧騒から静寂へと一変します。以上のリズムが一定してくるとマンネリが気になりますが、自らそれを戒め、当初からの目標である、レストランの雰囲気、バイキング形式をめざしつつづけたいと意を新たにしています。

(河野)

ショップパンジーより

先日、こんなことがありました。メンバーの身だしなみや掃除の仕方、パンの取り扱い方に、お客さんから注意をうけたのです。私のいうべきことばをお客さんにいわせてしまったことは、少なからずこたえました。

メンバーも私も、そしてお客さんも変わっていくことを期待して、あるいは願っての、オープンでした。メンバーに、より以上の期待、要求を課してしまっていると感じます。いわゆる社会からの風なのでしょう。

でも、注意してくれたお客さんはそれから時々ぞいてくれます。もっと風が吹いてもいいのかもしれない。

新しい年を迎え、ショップも2周年になります。こられたお客さん一人一人に支えられてここまで来たんだなあ感謝の気持ちでいっぱいです。

今年はどんな風の色か、しっかり見つめていこうと思っています。(S・I)